

Newsweek

THE INTERNATIONAL NEWSMAGAZINE

2002.7.24

Business Trends

採用 適性を見抜く 実務体験ソフト



実際に起こるさまざまな状況をソフトが再現

ス・コミュニケーションズ・グループのジョー・マリネリ副社長によると、新入社員の研修は通常4〜5週間にわたり、1人につき週400ドルのコストがかかる。「採用段階で不向きな人間をふるいにかけておけば、無駄を省くことができるうえ、離職率も低くなる」と、マリネリは言う。

新入社員の指導にあたる中間管理職も、無駄な努力を使わずにすむ。

アップワード・モーションが開発したセールス担当用のソフトでは、売り込みの過程で実際に起こるさまざまな状況を見せ、現したビデオ映像を見せ、適切な対応を選ばせる。

面接だけでは、なかなか適性を見抜けない。そこで一部企業は、実務を疑似体験できるシミュレーションソフトを導入、新規採用に活用している。雇われる側も、希望する職種が本当に自分に合っているかどうか確かめることができる。

マーケティング会社イージ

「その人の仕事ぶりは、シミュレーションのときにどう対応するかによって、ある程度まで予想できる」と、同社のキム・アデス社長は言う。「シミュレーションは、いわば試運転と言ってもいい」

試運転で赤信号がともったら、「さよなら」というわけだ。